

平成 30 年度第 2 回（平成 30 年 10 月 11 日）図書館運営協議会 会議録（要旨）

1 出席者

運営協議会委員（14 名）

【会長】学識経験者：雪嶋会長

【副会長】学識経験者：三浦副会長

【公募委員】京田委員、菅原委員、則竹委員、日高委員

【区内の社会教育委員】中村委員、横山委員

【障害者団体の推薦を得た者】今井委員

【図書館関係団体から推薦を得た者】尾下委員、

【中央図書館長】図書館職員：佐藤中央図書館長

【図書館側委員】図書館職員：梶資料係長、富樫利用者サービス係長、  
鈴木こども図書館長

図書館事務局（4 名）

【事務局】図書館職員：萬谷管理係長、関口利用者サービス係主査、  
管理係小林、管理係吉田

2 場所 中央図書館 4 階会議室

3 議事内容

協議事項

(1) 平成 29 年度新宿区立図書館サービス計画の評価報告について

(2) 平成 31 年度新宿区立図書館サービス計画に関する検討について

その他

(1) 第四次新宿区子ども読書活動推進計画（平成 28 年度～平成 31 年度）数値目標の更新について

(2) 先進図書館の見学について

【会長】 ただいまから今年度第 2 回の、新宿区立図書館運営協議会を開催いたします。この協議会は公開になっております。傍聴されている方がいらっしゃいます。よろしくお願いいたします。それから本日は 3 名の委員が欠席ですが、過半数を超えておりますので、本会は成立ということになります。事前に資料、配布されていると思いますので、まずは資料の説明からお願いいたします。

【事務局】 では、事前に郵送いたしました、資料を確認させていただきます。8 点ありまして、資料 1 次第、それから資料 2 平成 29 年度新宿区立図書館サービス計画、実績及び自己評価について。資料 3 平成 29 年度新宿区立図書館サービス計画 実績及び自己評価・次年度の対応（案）。資料 4 は資料 3 の総括になります。資料 5 が平成 31 年度新宿区立図書館サービス計画 次年度の対応について。資料 6、平成 31 年度のサービス計画に向けて、図書館運営協議会からの要望。資料 7 が 2019 年度 新宿区立図書館サービス計画（たたき台）。資料 8、平成 30（2018）年度新宿区立図書館サービス計画評価（たたき台）になります。本日、机上に第四次新宿区子ども読書活動推進計画数値目標の更新についてを配布させていただきました。皆さま、資料はおそろいでしょうか。大丈夫でしょうか。以上です。

【会長】 それでは資料が確認できたということで、本日の次第に従って進めていきます。協議事項の 1 ということで、平成 29 年度新宿区立図書館サービス計画の評価報告についてから始めますけど、まずは事務局のほうで説明していただいてから議論に入りたいと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】 それでは資料 2 と、資料 3 と、資料 4 をご用意いただいてよろしいでしょうか。まず、資料 2 から説明していきたいと思います。平成 29 年度新宿区立図書館サービス計画実績および自己評価についてです。前回もこちらの内容は説明したところなので、前段のところは省略して、変更した点についてお知らせしていきたいと思っています。1 ページ目の（4）、評価の手順というところですが、こちらについては、前回の意見と、それから教育委員会での協議を踏まえまして、修正したところがあります。②と③と④を修正したのですが、②については中央図書館で内容を確認して、何か変更したところはアスタリスクを付けたほうが良いというお話があったと思います。それで、資料 3 について、この冊子のところに該当するものについてはアスタリスクを付けました。例えば、四谷図書館、9 ページ目の上から四つ目の項番 4 の右端のところ小さいですがアスタリスクを付けて、これ中央図書館のほうで整理して、評価点、自己評価を変更したというのが分かるようにしました。

その他に、前回ご意見いただいた、箇所について文言を修正しました。それからその評価の手順の③が変更になりまして、これまでは図書館運営協議会で確認し、意見を反映さ

せ、評価結果とすると、評価の手順の③ではしていたんですが、この図書館運営協議会は教育長への諮問機関ということで、④を新たに付け加えまして、中央図書館で③の意見を反映させて、新宿区立図書館サービス計画の評価とするとさせていただきました。それで、評価の手順のところを固めたということになります。

裏面に移りまして、評価結果について、今回お配りしたものでは資料3と資料4のことを、ここで結果として今後報告していく予定です。それで、今後の予定としましては、こちらの資料3と資料4と合わせて、教育委員会、それから、常任委員会のほうに報告いたしまして、その報告が終わった後に、ホームページで公表して、各区立図書館で冊子を配布していくという流れになります。

資料4については新たにきょうお見せするものですので、こちらの説明をさせていただきます。こちらは教育委員会で意見をいただいたときに、資料3のものだと細かすぎるといようなお話がありまして、図書館でさまざまな事業行っていることは理解しているんですが、何をどう頑張ったのか、次年度どうしたらいいのか、よく分からないということで、総括というものを作成することになりました。次の協議事項、(2)のところ、また、評価については説明していきたいと思っているんですけども、今年度は資料4総括と、それから資料3を、合わせて公表していくというつくりで進めたいと思っております。資料3から次年度のことまで、今回の総括というものには落とし込めなかったんですけども、平成29年度の取り組みを総括したものがこの資料4です。

この総括の見方ですが、基本方針をベースに特筆するべきことを書いて、評価点は資料3に各項目の平均点を書いて、レーダーチャート化したものになります。レーダーチャートは各館で何が際立って良かったのかというように一目で分かるようにしました。ただし、この面積が大きければいいというものではなくて、どこに力を入れたのかということが、参考になるといいと思って作ったところです。今回、運営協議会では、次の(2)の新たなものの検討に時間を割きたいと思っておりますので、内容について、詳しく、後で見ただければと思っているところです。11月の教育委員会と常任委員会で報告して、ホームページで公表していこうと考えています。以上で、説明は終わります。

**【会長】** ありがとうございます。それでは、まず今の資料3、資料4というところですけども、一応確認ということでさせていただきたいと思っておりますけれども、既に資料3の「サービス計画実績及び自己評価・次年度の対応」はこの会でも見ているものですので、何か、気が付いたことがあればご意見いただければと思います。アスタリスクが少し小さく見づらい点以外は全然問題はないと思っているんですけども、何かお気づきのことがあれば、出していただければと思います。

**【委員】** この資料3の中央とこども図書館の評価のうち、自己評価が地域館に比べると低いんですね。これを見て、地域館も下げているのかなと思ったりするんですけども、

2～3の評価が多いんですね。そうすると、中央とこども図書館はあんまり新しいことや前年超えることをやっていないのかと疑問が出てきたんです。数えてみると、中央とこども図書館は地域館と比べて1が多いんです。3の評価も三つか、四つしかないんですね。この辺は中央図書館で、例えば、3ポイントが取れるような取り組みを行ったほうが良いような印象を受けるんですけども、この点はいかがでございましょうか。

**【図書館委員】** 中央図書館、こども図書館の取り組みという点では、今、委員がおっしゃったとおり、もう少し改善の余地もあるかとも思いますけども、基本的に中央図書館、こども図書館については、数量、数値をすごく重く見て、数値が上がっていないと、基本的には2とか、1にしているところです。30年度の評価については何らかの改善が必要かなというふうに思っているところです。地域館については、質的な面が中央館、こども図書館と比べて、入っているのかなというところがありましたので、質、量、見ながら評価するような形で平成30年度以降、考えていきたいというところを思っておるところでございませう。おっしゃるとおり、取り組みについては改善したいなと思っておりますけども、そういったところでございませう。

**【会長】** そういうことでよろしくお願ひいたします。他はいかがでございませうか。よろしいでございませうか。それでは、この資料3については承認されたということで。

その次ですけど、資料4ですね。総括なので、全体を見やすいように工夫したこと、それから新たにレーダーチャートを付けて、評価のどこがよいのか、強いのか、弱いのかということを示した、こういう方法についてはいかがでございませうか。これについて、ご意見をもらえればと思ひますのでよろしくお願ひいたします。まず、このレーダーチャートですけども、これはどうお考えでございませうか。

**【委員】** 分かりやすくいいと思ひます。

**【会長】** ありがとうございます。あと、評価するときに平均値を付けるというようなことでやっていたんですけども、そこは要するに、それぞれの取り組みのいろいろな採点したところの平均値ということでよろしいです。ですから、教育委員会の人、特に総括をまず見て、詳細評価を見て評価するという、そういうことになると思ひますけど、それについてはいかがでございませう。ここに例えば、非常にいい取り組みがあっても反映されていないとか、そのようなことがあれば、ご指摘いただければと思ひますし。よろしいでございませうか。それでは、この資料4も承認されたということで。これで、教育委員会のほうで願ひしたいと思ひます。

それでは、きょうの議論の重要な点が、その次の資料5についてですが、これも平成31年度新宿区立図書館サービス計画に対する検討ということで、資料について説明していた

だきたいと思います。よろしく願いいたします。

【事務局】 それでは資料 5、6、7、8 を使って説明していきます。最初に資料 5 をご覧いただきよろしいでしょうか。平成 31 年度新宿区立図書館サービス計画、次年度の対応について、こちらから説明したいと思います。平成 31 年度のサービス計画をこれから作るわけなんですけれども、今の資料 3 と 4 の平成 29 年度の評価を踏まえまして、新たに組み込んだほうがいいものを検討していこうと思っています。

資料 6 を先にご覧いただき、資料 6 が、この間 8 月末までに皆さまにお願いしたご意見を基本方針に沿ってまとめたものになります。資料 5 に戻っていただき、教育委員会から三つの意見がありました。一つ目が現在のサービス計画は細かすぎるので全体が一目で分かるようにすることです。二つ目が中央図書館と地域図書館とが連携して事業を行っているのであれば、それが見えるようにすること。三つ目は自己評価の考え方など、整理、検討してほしいということをおっしゃっています。この他、現在、指定管理者となるべき団体の選定を行っているところなんですけれども、その指定管理者の企画提案も踏まえて、平成 31 年度のサービス計画を作成していこうと思っています。

実際、平成 31 年度のサービス計画なんですけれども、先ほど教育委員会からもらった意見で、計画のたたき台と評価のたたき台を今回資料 7 と 8 でお示しさせていただいています。このフォーマットを使って、平成 31 年度のサービス計画を作っていこうと思っています。今後の予定ですが、指定管理者となるべき団体の選定について、教育委員会へ報告して、そこで承認されたら、サービス計画作成依頼をしまして、それが出てくるのが 12 月 1 日。その後、1 月 10 日に図書館運営協議会があるんですけれども、そこで、資料 5 の項番 1 でまとめた対応策を案として提示していきたいと考えています。3 月に同じように教育委員会にも案を提出して、そこでのご意見を踏まえて、3 月 14 日の図書館運営協議会でサービス計画を周知して、平成 31 年度最初の教育委員会に報告し、5 月末にホームページと冊子で公表していくという流れで進めていこうと思っています。

それでは資料 6 の図書館運営協議会からの要望ですね、こちらのほうをご覧いただきたいと思います。図書館名が書いていなかったものについては内容から、それぞれの地域館のところに書きました。基本方針の分野別計画事項は、基本方針のとおり、1 が資料の充実で、2 が地域資料の充実と該当するものが書いてあります。コメント欄には皆さまからいただいたコメントで、現段階でやっていますというものもいくつかありましたし、今後、こうやって作っていきますということで考え方を整理して、回答を考えました。このコメントについて、後で協議していただき、それで、次の平成 31 年度のサービス計画に、この辺りを反映していきたいということを協議していただければと考えています。皆さんのこのコメントを見て、また、新たに思い付いたものなどがありましたら、お伝えいただければと思っています。続いて、資料 7 をご覧いただきたいと思います。こちらは来年度のサービス計画のたたき台として提出しました。

最初からめくっていただくと目次がありまして、サービス計画の策定の目的を示しています。2 ページから新しいつくりになっておりまして、ここには今年度のサービス計画の概要版に使った表紙が好評でしたので、そちらを掲載していこうと思っています。1 から 6 までの方針について写真があることで分かりやすいと思いますので、これに基づいてサービス計画は作られているというのが分かるように書いていこうと考えています。3 ページ目、こちらは新しいページになりまして、教育委員会からの意見②で、中央図書館と地域図書館で連携しているのがあったら、それは一目で分かるようにしてほしいということでした。現在も各館で、全館で共通テーマとして、取り組んでいる事項がありますので、そちらを見えるように外に出してみました。2019 年度は四つの共通テーマを設定して、各館が連携して事業を行っていこうと思っています。指定管理者となるべき団体が決定次第、12 月に案を作成していただいて、この 1 月の図書館運営協議会で見せていこうかなと思っています。四つのテーマが夏目漱石関連事業、東京 2020 オリンピック、パラリンピック関連事業、それから、区の各部署との連携事業、④として、まちとの連携事業の四つを考えています。

夏目漱石については新宿区のゆかりの人物の代表であり、去年、漱石記念館ができましたので、これに伴って、これまで以上に作品を知っていただきたいということでテーマを設けています。オリンピック、パラリンピックについては来年、再来年になりますか、開催されるので、新宿区全体で盛り上げている事業の一つになりますので、図書館でもその盛り上げを応援する意味合いでテーマを設定していくというものです。③と④については、新宿区全体で区民の課題解決に取り組んでいるところなんですけれども、各部署やまちと連携しながら、現在も行っている事業がいくつかありますので、その辺りを全館に広げてやっていこうと思っています。例えば、③の区の各部署との連携事業などについては、自殺予防をしている団体とコラボして、今年中央図書館で展示を行いました。こういうようなものを各館で巡回展みたいなので、取り組めていけたらいいなと思っています。

④のまちとの連携については、地域センターで行っている、地域センター祭りなどと地域図書館は特に連携して事業をやっていますので、その辺りが今までの計画の中ですと埋もれて見えなかったものを外に見えるように出したということになりますが、それも引き続き、取り組んでいくというもので、重点取り組み事項の一つとして取り上げようとしております。

5 ページを見ていただいて、こちらの数値目標ですが、今までも数値目標は載せていましたが、全館の実績や、そういうのも併せて掲載していたので、それで教育委員会のほうから細かすぎる点や、全体が一目で分かりにくいというようなご指摘をいただきましたので、全館の合計のものをここでは載せまして、各館の実績は巻末にこれまでどおり掲載していくというようにつくりにしようと思っています。今、悩んでいるところがありまして、来年度の、2019 年度の目標で今回、項目としては新たに設けたんです、去年から設けているんですけども、目標の数値ですね、こちらについてどのように設定していったら

いいのかというところを今、図書館では悩んでいます。例えば、区内在住者の利用登録率であれば、実績が 2017 年度は 19.5 で 2018 年度の実績が 17.9 なんですからけれども、今度 2019 のものはどのような数字にしたらいいのかっていうことなんですからけれども、例えば、同規模の人口とか、23 区と比較して設定するというところもあるでしょうし、あと、ターゲットを明確にして設定するというところ、例えば、子育て世帯を増やしたい、子育て事業を一生懸命やるために子育て世帯の利用登録率を上げるために数値目標を設定したらどうかと教育委員のほうからのご指摘だったんです。目標を区内在住者の利用登録率を 20 パーセントにすると「この 20 パーセントってなんで 20 パーセントなの」というようなことをよく聞かれるんですけれども、そこに先ほどの例のように意味合いのある数値目標というのを設定したほうがいいのかなど、皆さんから何かいい意見があれば、それ反映できたらなと思っています。

資料 6 の図書館運営協議会からのご意見のところ、レファレンスの設定で、こういうようなアンケートみたいなもの取ってやったらどうかみたいなご提案もいただいていたかと思しますので、そういうような何か、この辺りで目標数値の設定についてご意見を後でいただければなと思っています。

次に 6 ページに移りまして、こちらは以前と変わっていないんですけれども、今回の指定管理者選定や、毎年行っている指定管理者の事業評価など、その辺りと合わせてサービス計画の点検及び評価を考えていくことも求められています。これは図書館内で検討しているところなんですけど、本来の流れとしてはサービス計画の自己評価があって、第三者の指定管理者事業評価や行政評価を踏まえたうえで次年度のサービス計画の構想という流れが望ましいのかなという話になっておりますので、その辺りはまた調整していこうと考えています。

7 ページに移りまして、こちらが新しいフォーマットとなりました。平成 30 年度のサービス計画と見比べていただければと思うんですけれども、これまでは上のほうに吹き出しがあって、各館の特色があって、その後、サービス計画、基本方針の項目に沿って、1 番からスタート、中央図書館は 4 ページにわたって、区立図書館のほうは 2 ページにわたって計画を立てていたんですけれども、この辺りは分かりにくいというお話がありました。それで、重点取り組み事項欄を設けて、取り上げた理由を記載し、これを評価の総括で特筆する事項になっていけばいいのかなと思ひ、ここに重点取り組み事項、こういうようなものを考えています。

それから基本方針の項目については、1 の区民に伝える図書館であれば、この辺り、2019 年度に力を入れたいものを三つぐらいピックアップして、載せていこうかなと考えています。地域図書館の指定管理者については、年度協定というもので、地域に密着した図書館サービス、利用者の拡大と満足度の向上、それから、レファレンスサービスのさらなる充実というものを採り入れることになっていきますので、当てはまる場合は、計画内のどこかにかっこで書いて表示していけたらなと思っています。8 ページ、9 ページでは例として

中央図書館の記載を行いました。最後 12 ページのところを見ていただきまして、現在も、このまず初めに、詳細の計画というのを作成して、それで体裁を整えて、平成 30 年度のサービス計画を作成しているところなんですけれども、この詳細の計画を合わせて新しいサービス計画、2019 年度版から載せまして、このうち特筆すべき事項を、先ほどの 8 ページ、9 ページのフォーマットに落とし込んで、特に 2019 年度はこれを頑張りますということを載せようかなと思っています。

以上が、計画のたたき台になります。この 2019 年度の計画は説明申し上げた通りですが、現行の 2018 年度の評価を新たな形で評価することは時間的に難しいので、2019 年度の計画から、新たな形での評価を検討しています。そのことを踏まえながら、この 2018 年度の評価のたたき台を考えてみました。目次などの体裁は後で整えることにして、ひとまず資料 8 の 1 ページ目をご覧くださいと思います。こちらについては、評価の考え方を掲載しておりまして、網掛けしている部分が平成 29 年度評価、先ほどの資料 3 から変更した部分になります。評価の方法について変更点がありまして、これまでは各館の自己評価の項目のみを掲載して、記載していたんですけれども、次のサービス計画につなげていくということを目的として評価しているものですので、全体的に評価して、改善を図るつもりとしていきたいと考えています。

この先ほどの資料 7 の計画と並べて見ていただくと分かりやすいのですが、最初に基本方針がありまして、資料 7 の 2 ページ目と資料 8 の 2 ページ目をご覧ください。基本方針に基づいて、こういうところに力を入れて、区立図書館としてやってきましたというものを書いていこうと思っています。ただ、結果だけではなくて、取組を分析して、そのことを記載していくというようなつくりをしていきたいと考えています。

(2) が重点取り組み事項になりまして、資料 7 でいうところの 3 ページ目、こちらが先ほど申した四つのテーマに対して、こちらは事業内容等を報告するようなものになるかと思っています。資料 8 でいうところでは、3 ページ目のところで、例えば、夏目漱石関連事業であれば、開催日時、会場の様子、事業内容、写真などを記載すると、やったことが分かりやすいかなと考えております。

(3) が数値目標になりまして、資料 7 では 5 ページ目、資料 8 では 4 ページ目になります。前年度比率や目標達成率などを提示しそのような数値が出た理由を分析コメントとして記載していこうと考えています。例えば、前年比率の実績が大幅に変動した時、その内容を分析したところ、ターゲットとして考えていた子育て世帯が上がったなど、そのようなことを書けたらいいなと考えて、こういうフォーマットを考えました。

それから事業管理サイクルについては、資料 7 では、6 ページに当たるところで、資料 8 のところでは 5 ページに当たるものになります。こちらについても、計画どおり行われたか分析して、もし計画どおりでなかった場合は、どこをどういうふうに変えればスムーズに流れていくのかというようなことを分析していきたいと考えています。

(5) の各館のサービス計画について、こちらは資料 7 の 8 ページ、9 ページのところ、

資料 8 では 7 ページになります。

自己評価の点数ですが、同じように 4 段階なんですけれども、4 については優良というような評語を付けまして、3 が良、2 が適当、1 が課題あり、と評語を付けることにしました。こちらは区の事業評価とか、指定管理者の事業評価でも、この評点と評語にしているため、利用させてもらいました。優良ですけれども、サービス計画でまとめられる水準を超えて良好であり、かつ、特に評価できるというように記載できるものを 4 の優良として自己評価。それから 3 の良と 2 の適当なんですけれども、こちらの差については、大きくは変わらずなんですけど、どちらにしても目的は翌年度のサービス向上のための評価ですので、コメント欄にそういうものを記載していこうと考えています。例えば、昨年度も今年度も変わらず評点は 2 だったんだけど、この辺りを改善してこういうことを今年度やって、次年度はこう改善していくみたいな、そんなようなことが書けたらいいのかなと思っています。点数だけが評価とは新宿区立図書館としては考えていないということが分かるようにコメントで書ければいいなと思っています。

評価の手順については、先ほど説明したものと同じようにしておりまして、調整した場合、欄外にアスタリスクはどこに記載していくかというのは、今後考えていこうかなと思っています。

それで、8 ページをご覧ください、結果を踏まえて、その次の年については、こういうところを新宿区立図書館で取り組んでいきますというものを明示していこうかなと考えています。最後のページの自己評価の詳細ですが、先ほどの計画のときに、サービス計画立てるための詳細の計画があるんですけども、それについて、自己評価を、事業内容はこういうもので、実際はこういうことをしました、だから、自己評価は 2 ですか、3 ですかというものを作っておきまして、それで、6 ページからの総括の根拠となるような資料として活用したいと考えています。

一気に説明したんですけども、今回、この (2) 協議のところでは資料 6 の図書館運営協議会からの要望についてのご意見をいただきたいということ、それから資料 7 の数値目標ですね、6 ページ目です。資料 7 の 5 ページか、5 ページの数値目標の設定、それから最後に、この資料 7 と 8 のフォーマット、全体についてご意見をいただければと思います。どうぞよろしくをお願いします。

**【会長】** 三つの議論の点を明らかにしていただきましたけど、まずは、皆さまがたからの要望について、図書館の回答に対応している、あるいは思っていたこととずれがあるのか、そういうことをご指摘いただければと思います。また、資料 7 と 8 ですが、西暦の年度と元号が使われていますけども、これはどっちかに統一するなど予定があるのでしょうか。

**【図書館委員】** 新宿区として、今回元号が変わりますので、2019 年度については、2019

年度ということで、2018年度については併記の形にしております。

【会長】　そういうことですね。分かりました。では、2019年度からと、2018年度のことですけれども、これがどのような形が望ましいかということをお聞きしたいと思っております。

まず、皆さまがたからいただきましたコメントに対する回答を確認していきたいと思っておりますので、皆さまがたがそれぞれお書きになっているところを注目していただいて、実はこれ、こうなんだよとか、あるいは、少し違うんだよとかといったことがあれば、ご指摘ください。お願いいたします。いかがでしょうか。こちらから順に伺ってよろしいでしょうか。

【事務局】　1点だけよろしいでしょうか。この回答を書くときに、少し悩んだのが、2ページ目の上から二つ目、子どもの学習支援の場として利用できないかということです。詳しくは、図書館委員から説明します。

【図書館委員】　上から二つ目、子どもの学習支援の場として利用できないかというところでございます。学習支援ということがどの程度の意味合いなのかというのはありまして、通常から、調べ学習の講座やレクチャーなどを行っていますし、調べ学習等を行う子どもたちへの支援は行っているところではございます。あと、中町図書館などにおいては、近くに東京理科大学がございまして、そこの大学院生に来てもらって、夏休みに通学教室を開くなどの事業を行っています。学習支援というのが、例えば、福祉部において、子どもたちに学習塾的なものを提供しているというような事業もあつたりするんですが、どの程度のことを指しているのかなということをお聞きしたいと思っております。

【会長】　ありがとうございました。他はいかがでしょう。

【事務局】　今、図書館委員から説明のあつた箇所については、どういうふうにな年度の計画に反映させたいのか、分からなかったところです。

【会長】　今、ご指摘があつたところを含めて、ご自分で書いたところについて注目していただいて、それについての図書館からの回答として見合っているかどうかということ、あるいは、こうではないというのであれば、それをご指摘ください。

【委員】　2点あります。私が考えていた学習支援は、新宿の施設では、例えば、外国籍の子供たちを休みの時間帯などに支援する人が何人かで教えたりすることができる場所があるんですね。それで、公の場所でお話をしながら5、6人あるいはマンツーマンにする

にしても、お話しできる場所がないのかなと思っています。例えば、喫茶店みたいな所に連れて行くという時間的にも場所的にも適切ではないですし、それぞれの自宅に行くというのも、また問題ですので、どこか公の場所で、夏休みとか冬休みなど学校から離れてしまったときに何か支援する場所を提供していただくことができないのかなということが1点です。

それからもう1つ、2 ページ目の上、各施設のスペースの問題があって、ホームページの予告などの可能性を検討しますという意見。それから、その下の実施できる図書館があれば、行っていきますという意見。あと、3 ページ目の一番上ですね。このアイデアも大変いいんです。私は新宿区の図書館で、全体で盛り上げていく、情報共有するということも必要だと思うですね。隣接する図書館ではこんな行事もやっていますというようなことをホームページで見られるような人はいいんですけど、そうじゃない方もいるので、せめて来月はこんな行事が各図書館でやっていますよというようなことを各図書館で掲示するなど何か方法はないのかなと思うんですね。というのは、図書館に行ってみても、そういうものが表示されている所はなくて、せめて、今月の新宿区の図書館の催しものっていうようなことをプリントアウトして、貼っておくだけでも少しは情報が行き渡るんじゃないかなと思いました。以上です。

**【会長】** まず、学習支援ですけども、これは図書館の場で、声が出せるような場所で例えば宿題を指導など、学習指導になると思いますけども、そういう場所があってできないのかということですね。これはなんか、必要があったら、その場でやると、そういうことですよね。あらためて何かになるっていうじゃないということですね。そういうことだと思うんです。それから、ボランティアコーチやホームページの予告とかありますけど、それから、新宿区全体で共通した情報を持ってないのかという、あるいは共通した情報を出せないのかということですが、そこの辺はいかがでしょうか。

**【図書館委員】** 今、ご意見いただきました、ほかの地域館でやっているイベントのこともプリントアウトなどしてというご意見いただきました。例えば、これまでも映画の会などについては各地域間にちらしを置くなどしてやってはいるところではありますが、各地域館同士での利用者への周知ということについても、館長連絡会等通じて、呼び掛けをしてまいりたいというふうに思います。

**【会長】** 現状ではまだそこまでいっていないということですね。

**【図書館委員】** 地域館同士の現状については、やっているというふうには思っているんですが、実態把握はしていないことをございます。

【会長】 分かりました。

【図書館委員】 今、委員からのご意見は、ホームページ上ではもちろん、周知しているんですが、それ以外のホームページを見られない人もいるという、あるいは、たまたま図書館に行ったときに、他の図書館で何をやっているかっていうのを知ることができないかっていうご意見なんだと思うんですけど、そういったご意見も踏まえて、考えさせていただきたいのは、全然実現レベルじゃないですけど、デジタルサイネージを使った情報発信という方法もあるだろうと個人的には考えておまして、新宿区立図書館としての催しというのを利用者の方に館の隔てなく発信していくっていうのを今後の課題として検討させていただきたいと思います。

【会長】 ぜひお願いいたします。

【図書館委員】 学習支援につきましては、先ほどのお話ですと、日時を定めず、勉強したいような子どもたちが集まれる場があったらいいなど、そういうようなお話で、受け止め方でよろしいんですか。

【委員】 毎日は、いろんな会議でお部屋を使ったり、いろんな催しものがあったりして、難しいかもしれないんですけども、例えば、毎週水曜日の午後は開放していますよと。そんなふうにはできないかなと思ったんですね。

【図書館委員】 例えば、図書館の本を使って、子どもたちが自由に勉強するというのは、毎日やっていることなんですけども、そのスペースを決めるということについては中央図書館だけではなく、それぞれの館のスペースの問題もありますので、今後検討はさせていただきたいと思います。あと、これはご質問の筋からそれるかもしれないんですが、学校図書館で、今、放課後広場という、学童的な学習支援をするような場がありまして、昨年度の教育支援課の目玉事業が学校図書館を放課後開放して、そこで自由に勉強ができるような場を設けるといようなことを始めたところでございます。

【会長】 学校図書館のみならず、公共図書館でもっていう、そういう要望だと思いますのでぜひ、検討していただければと思います。

【委員】 私の意見は、2 ページ目の下から二つ目のところで、返却の在り方を検討していただきたいみたいなことを前回言ったように記憶しておまして、これはそのとおりなんで、特に申し上げることはありません。

運営協議会からの要望についての図書館からの回答の中で、工夫すれば、先ほどお話し

にあったようなレベルの話であれば可能ですということと、中長期的にお金の問題も含めて検討しなきゃできませんといったようなものも混在しているので、飛びつけそうな話と相当難しいなっていう話分かるようになっていけばいいのかなという気はいたしました。私のほうは以上です。

【会長】 その辺、この回答の書き方ですね。そこはちょっと今後、工夫をしていただければと思います。

【委員】 私が書かせていただいたものは三つあったんですけれども、最初に2ページの中央辺りですね。上から数えて6番目の図書館ボランティアについてというところですけど、これはご指摘のとおり、夏休み、非常に繁忙期だということで、各館とも受け入れが難しいという回答でございまして、そのとおりだろうなと思います。ただ、これは図書館によって、多少温度差があるように感じますので、その辺り、統一的な運用をされて、人手が足りないよ、ぜひ受け入れたいよっていう所があれば、他館にも例えば紹介するとか、横の連携を取っていただくといいのかなというふうに感じております。

それから、もう一つございましたのが、1ページ目の上から二つ目の外国語多読というところですけども、これにつきまして、ご回答のとおりでよろしいかと思うんですが、ちょっとこれは、私が感じたのは誰のための多読資料の準備なのかというところなんですけれども、外国人が多い所だから、例えば、四谷、北新宿の所は多読をやっているよということではないんじゃないかなと。区民のためにこの多読というのがあるんであって、外国人が住んでいるから、そこで、外国人の方に借りていただくというものではないんだろうなという感じがしていたものですから、もっと他の館でも取り組んではどうかということで、書かせていただいた次第で、これは回答のとおりでよろしいかと思います。

あと最後、三つ目ですけども1ページ目の上から5番目ですね。職員のレファレンス能力の向上についてというところですけども、これ、たまたま西落合のコメントのところで、そこはレファレンスの実績が悪いということなのかなということで、指定管理者の本部職員がレファレンスの覆面調査をしていますよという記載があったものですから、他の館はどうなんだろうということまで質問させていただいたんですけども、ご回答のとおり、各館で取り組まれているということです。それぞれ指定管理者がやっているんだとすれば、それぞれのやり方が違う可能性がありますので、例えば、フォーマットとか評価の仕方っていうのは統一されているのかどうかということも少し気になるころであります。これを今後レファレンスの品質の向上ということに役立てていけないかというご提案なんですけれども、これにつきましてはご検討していただくということなんですけれども、たまたま、別の関係で、都営交通の分担もちょっと私やっております、近隣の四つの都営の地下鉄の駅、モニターして、評点を付けるということやっておりますけれども、そういった仕組みを同じようなものを取り入れたらすると、統一的な基準としてレフ

アレンスの品質のモニタリングということができるのではないかなということを思って提案していただいた次第でございます。以上でございます。

【会長】 ありがとうございます。3点のご指摘ですけど、多読について図書館でどういうふうにお考えかと確認させていただきたいと思っておりますけど。

【図書館委員】 今委員ご指摘の、質問にお答えいたします。多読と言いますか、多言語の資料の収集については、ここにも書かせていただいているとおりにんですが、スペース上の問題や、新宿ですと、英語とか中国語に限らず、いろんな種類の言語が混在しているときにあちこちに分散させるよりは、詳しいスタッフがいる所に集中させるほうが良いと考え、そういった形で集約をさせていただいているということです。ただ、区民の方も含めて、どこでも読んでいただくことのためには図書館同士で本を配送しておりますので、そういったことで対応させていただきたいというふうに思っております。

【会長】 今、ご説明になったのは多文化のサービスのお話で、多読とちょっと意味が違うんですね。外国語多読っていうのは、例えば、英語の本をたくさん読むって、そういうための資料なんですね。これは割と平易な英語で書かれているものがありまして、それをかなりたくさん読んで英語を勉強するという、そういうようなものなんですね。多文化は、逆にいろんな言語のものを置いて、いろんな出身の方に読んでもらうということなので、これ多読というと、逆に言うと日本人がやる作業なんですね。ですから、ここを多読についての回答になっていないのではないかなということだと思いますので、もう一回検討していただけますでしょうか。多読と多文化は全然違うことなので、そこをご考慮ください。

【委員】 私、1点だけコメント出したんですけども、2ページの一番上なんですが、中央こども図書館の図書館講座というところで、読んだときに、ボランティアで人気講師が開催したのに、回数は少なくなったということが書いてあって、読んだときに、知っていれば行ったのにも思ったんですけども、私はホームページをそんなに見ないんですね。このときに言った、PRの工夫でポスターが良く書いたのは、普通の人が一番、目を通す場ってどこかなと思ったら、私だったら、駅の改札は必ず周りを見ちゃうし、あの辺は広報なども置いてありますよね。ああいう場にポスターって貼ることはできないのかなと思って書いたんですけども、その辺はどうなんですか。

【図書館委員】 私共としましても、駅内、公共施設にも置いていただきたいなという思いはあるわけではありますけれども、なかなか有料であることや、いろんな事情でこれまでも難しいところもあったというふうに思いますけれども、ただ、そういった意識は持って、今後も対応していきたいというふうに思っています。

【会長】 実際にそういうことでもし、駅に貼るとなると、どのくらいのお金がかかるのか、あるいはポスターの要件がきまっているなどそういうのあるんですか。

【図書館委員】 具体的なコストなどは、確認しているわけではございません。

【会長】 もし、検討できるなら、例えば、費用見積もりするというのも、一つだと思います。駅で全く貼れる場所がないのか、ただ、JR じゃなきゃ地下鉄とか。いろんな方法があるんじゃないかと思うんですけどね。ぜひ検討していただければ。もちろん、予算的に無理なら予算的に無理だという説明をしたほうが分かりやすいかなと思います。

【委員】 駅は有料枠と無料枠ありまして、無料枠は、2 週間、長くて確か 1 カ月ぐらいなら、例えば、大学の文化祭や夏目漱石関連事業のポスターなどであれば、無料枠で貼ることは可能かと思います。極めて個人で貼るようなものとか、ある会社で貼るようなものっていうのは有料コースだったかと思います。

【会長】 公共のものは。

【委員】 無料になるかと思いますが、こういった区や非営利の団体が「2 週間だけ貼らせてください」と言えば、運が良ければの話ですけど、物理的に場所があるかどうかですね。

【会長】 スペースの問題ですね。

【委員】 スペースが空いているか空いていないかというのはあると思いますが、無料にはなるかと思うので、声掛けだけはすれば、運が良ければ貼ってもらえると思います。新宿駅はスペースがありますから、多分貼ってもらえると思うし、券売機あたりのスペースは空いていますから検討の余地はあると思います。貼ってくれるかどうかはまた別ですけど。

【会長】 ありがとうございます。そういうこともあるということですので、ぜひ、ご検討いただければと思います。

【委員】 よろしいでしょうか、その件について。私、地域の活動をしておりまして、いろいろなポスターが来るんですね。ですけれども、近隣の図書館でこういう催しをやってますとかというポスターは一度も貼ったことがないんです。ですので、町会等の掲示板

も利用できますので、ぜひ、目玉のような事業がありましたら、お使いいただければいいのかなと思います。掲示板もいっぱい有的时候もありますし、空きがあるときもありますので、そんなものも利用できるのかなと思います。近隣の図書館でしたら、全地域にまかなくとも近隣の町会だけでも、利用していただくともっと住民への周知ができるのではないかなと思います。

【会長】 はい、どうぞ。

【委員】 ちょっと関連してなんですけど、例えば、先ほど委員が言ったように地域の町会もそうですけども、地域センターで、情報を得る方は多いと思うんですね。そういう地域センターでしたら、区の管轄だと思いますので、そういった所にも掲示や配布ができるような仕組みは整えていただければと思います。

【図書館委員】 ありがとうございます。町会さん、あるいは所管課とも調整しながら、ぜひ、利用していきたいなというふうに思っています。

【会長】 それでは次、お願いします。

【委員】 1点お伺いしたいことがございまして、ホームページが図書館単体で見れるような形になって、大変見やすくなっているということは存じているんですけども、新宿区のホームページ全般的にいえることなんですけども、どうしても様式が統一されていて、ホームページ上で各館の特色が出しにくい様式になっているのではないかなというのを感じております。そこに指定管理事業者のホームページへのリンクを貼ることによって、指定管理事業が新宿区内だけではなくて、他にも受けている所で特色的な活動やイベントなどをやっているというのを情報として見ることによって、新宿区のイベントとしても、取り組んでほしいというような意見等々が出てくるかと思いますので、そういう仕組みづくりというのも積極的に行っていただければというふうに思っております。

【会長】 ぜひ、そういうことも検討いただいて、各館の特色というのが分かるような、そういう作り方というのをちょっと考えていただければと思います。ではお願いします。

【委員】 3ページの一番上、1、2、3とあるんですけども、まず、いいことたくさんやっている分館があるんですけども、それを全体に広げる手はないかということで、こういうことを書いたんですね。図書館のからの回答が実施できる図書館があれば行っていきますということなので、今のやり方だと、難しいと思うのです。年度計画というのをかなり前から図書館、各分館立てますよね。そこへ中央館からこういうのがあるから、皆さんや

りませんかと言っても、もう入らないんですよ。ということは計画立てる前にこういういいアイデアもありますよ、やりませんかという情報が共有できないといけないんです。その辺をもう少し前向きに考えていただくと、いいと思います。いい講座やっていると僕は思うんだけど、それが一つ、二つの図書館で終わっちゃっているところに、非常に残念さがあるので。こういうのも例えば指定管理館の選定にやったか、やらないかなんていうのが点数に入れば、みんな真剣になると思うんですけども、もう少し前向きに中央図書館側のほうから、各分館に情報提供していただきたいというお願いです。これは一つ前のところで本のお楽しみ袋というのあるのですが、それも面白いんですよ。僕も図書館のことは随分あちこち行っていますから、知っていたんですけども、こういうのをやっているっていうのは、本当に少ないですね。そういう意味ではいいアイデアですからぜひ広げていただければなと思います。

その下の、次のところですけども、図書館のこの回答に区の教育委員会の主催なので出版社スタッフの動員はなじまないと考えますという回答なんですよ。僕が言っているのは実際に、僕もやっていますけども図書館の会議室を使って、夏休み等で調べ学習の説明会をやるんですね。そういうときに編集者などが行って、こうやって資料集めるよ、こうやって、まとめるよっていうような話をする、そういう意味のことを言っているつもりなんです。ですので、各分館が担当して調べ学習の導入を図っているわけですので、そういう分館単位でもっと民間の力も借りたらいかがですかと。調べる学習コンクールの全国委員は、公共図書館の司書さんか、出版社の方たちが圧倒的に多いんですよ。そういう人たちを紹介することもできますので、こういう出版社スタッフはなじまないという考え方はなくて、かさ上げするための協力をもっと得たらいかがでしょうという僕なりの提案です。

その下はもっとこれ、深刻な問題で、図書館からの回答に、表彰の統一基準を公表しとあるんですけども、実際に選定に関わられるとこういうふうにはいかないということ分かるはずですよ。僕は新宿区もやっていますから分かるんですけども、例えば、低学年、中学年、高学年、高校で分かれて審査するんですよ。僕は低学年だけやっているんですが、そこでみんなで選んで、大体これが1位で2、3、4、5だねと、みんな委員の間で決まるじゃないですか。各館長が館長賞出さなきゃいけないので、他のブース回って無いと、低学年のブース来て、「これ館長賞、この図書館の館長賞だ」とおっしゃる。僕の頭の中でいうと、それ7番目ぐらいですよとなるわけですよ。そういうのが館長賞として出ることがいかなるものですかということ言っているわけですね。実際そうなんですよ。だから、もっと極端に言うと、絶対これは1番だという図書館があったとしますよね。そういう図書館ほど、実はいいのが二つ、三つ続くんですよ。だけど、一つ取ってしまって、他の人たちが自分とこの館長賞出しますと、実際は2番目ぐらいのものがずっと下のランクになるんですよ。だから、僕はここに全体の区長賞、教育長賞、中央図書館賞というのを設定して、それを全国審査に出したらいかがですかと。全国審査、最終審査、僕やって

いますので、よく分かるんですけども、挙がってくるときに、どこどこ図書館長賞って挙がってくるんです。

他の所も挙がってきますよね。何々市長賞とか、町長賞とかって挙がってきますよね。賞が付くので並んだときにごくぜんとしますよね。差がありすぎて。そういうことを避けるためにこれ申し上げているんです。ですから何とか、今後考えますって書いてあるんですけども、僕はこれ絶対に早めにやらないと新宿の図書館長は大したことないっていうふうに定着しちゃいます。ですので、ぜひ、一考していただきたいなというお願いです。以上です。

【図書館委員】 調べる学習コンクールについて、ご提案ありがとうございました。私のほうも編集者の方の動員というところが、どういうことなのか、ということが少し読み取れなかったのは申し訳ありません。編集者の方々が学校へ行って、どのような動きをするのか、少し絵に見えなかった、いうところです。

【委員】 学校行くのは駄目なんです。学校行くんじゃないくて、図書館の中で夏休みなり、夏休み入ったときに声を掛けて、参加者が来た所へ行って、この調べ学習に取り組む考え方やまとめ方を説明する。これ、ボランティアで出版社のほうの編集者なりを動員するということです。

【図書館委員】 分かりました。各館で夏休みになりますと、毎週のように調べ学習支援教室は行っていますので、その中で、こういったところでご協力いただける方々もあるということ各館で構成される委員にもお話をさせていただきたいと思います。

【委員】 お願いします。

【図書館委員】 また、これから区長賞を設けるということについては、その館によって、統一の基準はあるんですけども、そういったことがあるっていうことは、お話をさせていただいて、今後、いい方向に行くようにさせていただければと思っております。

【会長】 その次、お願いします。

【委員】 私が送らせていただいた意見は3ページの上から5段目、6段目辺りなんですけれども、この保健センターの0歳児が読み聞かせにはたくさんいらっしゃるけれども、3歳児の読み聞かせにはぐっと人数が少なくなるというのは、生活に追われて、読み聞かせまで聞いている時間がないという理由が主だとは思うんですけども、この間に図書館離れがすごく進んでいるのではないかと思い、その興味を持続してもらうのに、お知らせ

等で工夫して、何かいい方法はないかなと思って提案させていただきました。それで、ウェブサイトからの電子的なリクエストなんですけれども、これはやっぱりお金と時間と人員がかかるから難しいということですかね。

**【図書館委員】** まず委員の最初のお尋ねです。保健センターでの読み聞かせ、確かに0歳児は初めてお子さんが生まれる方も多くて、必ず聞いて帰るといふことがあるんですが、3歳児になると、もうそのお子さんを保育園に連れて行かなきゃいけない、下の子が生まれる、なかなか回れないというようなことがあります。そういったことがある中で、今までどういうふうにPRしていたかという、各保健センターに最寄りの図書館の職員が向かまして、いろんな図書館の案内をするんですが、自分の館の案内が中心でございました。これではいけないというので、去年、全館で諮りまして、地域の図書館の案内を全て置くことにしました。例えば、牛込保健センターは戸山図書館と中町図書館と鶴巻図書館が管轄なんですけど、実際に行っているのは鶴巻だけだったんです。それ以外の町にお住まいの方がいらっしゃるの、鶴巻だけでなく、その他の館の案内も置くなどの対策を講じたところです。

また、会場の問題がありまして、待合室のどこかでやっていけば、声が絶対聞こえるので、気になって皆さん、回ってくださるんですね。ただ、牛込の保健センターは健診が終わった後に別室にご案内していたので、これではなかなか気づいてもらえないだろうということで、待合のスペースで健診を待っている間に聞けないかというような、そういった改善を今進めているようなところでございます。

**【会長】** では、その辺でよろしいでしょうか。では、お願いします。

**【委員】** まず、1ページ目の下から1、2、3段落のところですね。全館というところで外国人、障害者、高齢者に対する支援。これ各コーナーに拡大ルーペ、丸型のルーペはとも見にくいんですね。それですので、定規型とか下敷き型のようなものがあれば、チェーンでつなげてどこかつり下げて置いていただくと、受付まで行ってお借りするってことではなくて、すぐそこでちょっと足を運べばできるのかなというような、そういうようなことを感じました。

それと、一番下の段で魅力あるイベントの実施ということで、私、和とじ本などの製本講座をやっていただけだと思っております。ある年代になりますと、新聞切り抜きだとか、雑誌の切り抜きだとかっていうそういうものをノート買ってきて貼っている方が多いんですけれども、そんな講座があったら皆さん、参加するんじゃないかなと思いました。

それから、2ページ目の上から1、2、4番目ですね。多様な学習機会の提供ということで、今大人もそうですが、子どもたちの日本語というのが大変乱れておりますので、魅力あるようなイベントの中で日本語の正しい使い方、美しい日本語講座というか、そんなも

のもやっていただけたらなというふうなことを思いました。

それから2ページ目の下から二つ目。やはりいいものを行っている所はいいものは周知していただいて、皆さんに広げていただくというような、そういう気持ちもありまして、翌年からは全館で取り上げていただけるといいなと思いました。例えば、赤ちゃんタイムのようなもの。現在、いろいろな形でやっていただいておりますけれども、そういったものなどがそうだと思います。

それとやはり、魅力あるイベントの中で、こども図書館に関して、幼児向け、小学生向けの簡単な手作り絵本などの講座が夏休み等の休み期間中にあれば、世界でただ1冊しかないんだよというような絵本が作れるのかなと思いました。それで最後のページですね。4ページ目の三つは私が出させていただいたものだと思うんですが、やはり人材育成、活用というところで、案内やレファレンスを含めて、ぬくもりのある図書館運営をしていただいたらいいのかなというふうに、こういう図書館だったらまた来たいというように思いになりますので、そんなところです。

それと、新宿区の図書館、大変狭い図書館が多いので、ぜひ、危機管理の面でも利用者も参加していただくような形で年に何回か、1回でも2回でもいいですけども、避難訓練みたいなものを取り入れていただけたら安心して図書館が利用できるのではないかなと思っておりました。

それから、最後のところです。ここの中央図書館、学校の跡地ですので、校庭などを利用して、リサイクル本のイベントをして、そこに読み聞かせコーナーとか相談コーナーとか、スタンプラリーといった、図書館ですので、クイズラリーのほうがいいでしょうか。そんなもののイベントも年に1回くらい、お子さん向けでもいいし、全体、年齢問わずのイベントをなさってはいかがかなと出させていただきました。

**【会長】** これでこの要望に対する回答というところを確認させていただいて、ちょっとずれがあるところとか、そういうところ、もう一度検討していただいて、そのコメント、要望についてなるべく、計画に生かせるような、そういうことを考えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

その次ですけど、次が資料の7のほうの部分ですけど、計画についての書き方が2018年度から変わりますが、これについて、委員の方、どのような考えをお持ちか少し教えていただければと思います。これは、ご意見ある方でいいと思いますけども、よろしくお願いいたします。特に、数値目標をどういうふうに設定していいかという部分については、こういう数値がいいんじゃないかというご提案があればぜひお願いしたいと思います。

**【会長】** よろしいですか、私のほうではこういう数値を例えば、前年度比何パーセントアップみたいな形で、右肩上がりということよりも、むしろ、例えば東京の23区なら23区のサービスの水準の中において、新宿区がどのくらいの位置にあるのかというのを見

えるようにすると、もうちょっと上げなきゃ駄目だとか、そういう新宿区区民がモチベーションを持てるのかなと思うんですね。新宿区の図書館サービスがなかなかいろんな所と比べて比較しにくいもんだと思うんですけども、それをもうちょっと見える化すると、ここの区よりはアップしたいなとか、そういうようなことがあるのかなとふと、思っていたんですけども、そういう考え方もあれば、明確に、例えばもうちょっと、はっきりとターゲットを作っちゃって、こういうほうがいいんだということもあると思いますけれども、皆さまがた、いかがお考えでしょうか。先ほど、他の区のモニターされているというお話がありました。そういう観点からするといかがでしょうか。

**【委員】** 他の自治体との比較というのは、人口ですとか、居住者のいろんな特性によって、それぞれあると思いますので私の意見としては、新宿区立の他のいろんな施設、例えば、歴史博物館などそういった所の来館者数と新宿区民との人口との比率ですとか、それぞれの区立の施設でも、こういった目標設定されていっしょじゃないかなと思いますますので、同じような基準を利用する。ただ、登録というのは歴史博物館の場合にはないでしょうから、この登録は何を使えばいいのかというのはあろうかと思えますし、先ほどのレファレンスの品質については、これはアンケートで良かったとか、悪かったとかというのを利用者にそれぞれ付けてもらうというのもあるとは思いますが、あまりにも大ざっぱ過ぎてしまうかもしれませんので、例えばモニターを使う、区立図書館の方がやるのもいいですし、指定管理者さんがやるのもいいですけど、場合によってはどこかそういった調査会社に依頼すると、費用かかるものでしょうから、簡単にはできないかもしれませんけれども、そういった第三者的な基準で品質を評価するというようなやり方もあるのではないかなと思いました。目標設定とモニタリングの仕方と二つの要素が出てきますけれども、いかがかなというふうには感じていました。以上です。

**【会長】** 今のモニタリングというのも新しく出てきましたけど、そういう評価の仕方というのはこれまで考えてこなかったと思うんですけども、予算の問題もあられると思いますので第三者評価ということになりますけども、そういうようなことってというのは今後いかなんでしょうか。

**【図書館委員】** 今、委員のほうから、アイデアということいただきました。ただ、委員も触れられているように、コストの問題あろうかと思いますが、今時点で案として考えているのは、アンケートが印象的なものであるとしても、期間をかけて、続けていくことができれば、対前年比とか、そういったことでの相対的な評価はできるのではないだろうかというようなことも考えております。ただ、いろいろとアイデアいただきながら、進めていきたいというふうに思っています。

【会長】 確かにどれを数値目標として適当かというのは非常に難しいとは思いますが、もしこういうのがというアイデアがあれば、ぜひ、図書館のほうにお知らせいただければいいと思います。時間も来ていますので、では、きょう、この評価についてはここまでです。

次は資料8のほうですけども、これはサービス計画の作り方といいますか、フォーマットという問題です。今までとだいぶちょっと違うものですから、こういうふうな形が、どうなのかということにして、今までは非常に細かく、ざっと並べて各館それぞれやっていたんですけども、例えば、共通する事業はまとめてみるとか、あるいは、ピックアップして載せてみると。その詳細は巻末に別途に用意する。こういう今までと全然違うことになるんですけども、いかがでしょうか。今まで比べて見やすいか否か、あるいはこっちのほうが分かりやすいかどうかということですけど。教育委員会としてはそちらの分かりやすさを求めているんじゃないかと思うんですけど。委員の皆様はどのようにお考えでしょう。

【副会長】 こちらの評価のほうの3ページ目に重点取り組み事項の事例が挙がっていて、事業内容、参加人数、写真等、比較的に分かりやすい形で、ご報告内容がまとまるのかなというイメージがわきましたので、ぜひ続けていただければと思っているんですが、その事業内容のところ、主催者側の考え方だけではなく、統一プログラムを実施しての参加者の意見であるとか、声といったものをぜひ、こうしたところにも盛り込んでいただきたいというふうに考えております。やはり、何人参加したというのが評価の視点になってしまうと、事前のPR どれだけ進めたかということが大きな、クローズアップされる点になってしまうかと思うんですが、やはり当日プログラムというものがどのように利用者の方に受け取られたのか、そのことがフィードバックされることによって次年度以降、また、その事業を展開していく際の、新たなステップになるかと思しますので、ぜひ、その辺り含めていただければと思います。

【会長】 はい、次の方。

【委員】 評価の表なんですけれども、重点取り組み事項やレーダーチャートのある図のように、表があるほうが見やすく、興味を持って見てもらえるかなと思いました。

【会長】 ありがとうございます。その他はいかがでしょうか。どうぞ。

【委員】 表の資料7と8で、これは今後連動させて、評価をしていくことになるかと思うんですけども、まず、資料7の3ページ目、重点取り組み事項等4項目ありますけども、ここで重点取り組み事項をあえて抜いて、さらに各館で重点取り組み事項を入れているところで、全館の重点取り組み事項と連動させてもいいものなのかどうかということ

と、せっかくここに重点取り組み事項で各館の特色を出すような形にしているので、評価の際にはどれくらいの評価ができたものなのかということは何らかの形で見えるような仕組みにしていいただければいいかなと思っています。

【会長】 ありがとうございます。重要なお指摘なんですけど、重点取り組み事項として出している共通して催しと、それから各館の重点取り組み事項との関連性ですね。ここは重複する前提か、それとも重複はしないのかというのちょっと気になるんですけど、いかがでしょうか。

【図書館委員】 重複しても全く問題ないというふうには考えてございます。やはり、区として、全館で取り組むものが何なのかというのと、また、地域館が何を重点にしていっていかっていうのを明らかにしたほうが分かりやすいんじゃないかということで、結果として重複することもあるのかなというふうに思っているところでございます。

【事務局】 各館のところは名称を変えたほうがいいかなと思ってまして、各館のところは特色ある事業とか、そういうような書き方ですかね。内容については、例えば、夏目漱石のことカ入れようと思っている館があれば、全館共通テーマと重なることもあるかもしれないんですけども、各館の特色ある事業というのを各館のところで出して、全体の共通のものとの区別ができるような表記ができるようにしたいと思います。

【会長】 重点取り組み事項ではなく、共通して取り組む事項などという言葉にして、これだけやっていますよというわけではなくて、これは重複でやるけど、各館は重点的に別に取り組むもありますよと、そういうふうな言葉のほうが分かりやすいかなと思います。共通してみんなが重点的だというふうに言わなくてもいいかもしれないということですよ。ここ、ちょっと工夫していただければ、言葉の違いでだいぶ分かりやすくなるかなと思います。ありがとうございます。その他のところでフォーマット的にはいかがでしょうか。見やすくなるというふうに皆さまがお考えであれば、これで進めていただいていいかと思えますけど、それでよろしいでしょうか。

【委員】 1点だけ。見やすいのはこの六つのレーダーチャートでしかも、ローマ数字のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵでそれぞれ見れるようになるので非常によろしいと思います。資料8の8ページで思い出したんですけど、去年は例えば、中央図書館でいうと、70項目以上あったのですが、こういうふうにレーダーチャートで1枚になると、30項目ぐらいに減ってしまうどちらになるのでしょうか。

【事務局】 計画も評価も、最後のページをご覧ください。計画自体は70何項目、多分

なると思います。それについては、簡単にこちらのほうで参考資料として、見ていただけるようなものにしていくと分かりやすいのかなと思っていますので、事業の数が減るわけではありません。

【委員】 ありがとうございます。あと、もう一つ

【会長】 どうぞ。

【委員】 資料8の5ページのタイトルが事業管理サイクルで、本当にサイクルになっていて、1月、四つのボックスがサイクル型になっていたんですけど、これだと文章だから、サイクルじゃないので、ぜひサイクルにまた戻してほしいなど。

【会長】 これは既にあるような形のタイトルのようにするということをお願いしたいと思います。これで以上、資料8まで検討したということによろしいのか。まだきょうの議題が残っておりますので、そちらで、③ですけども、第四次新宿区子ども読書活動推進計画の数値目標の更新についてということですけども、これについてよろしくをお願いします。

【図書館委員】 お時間をいただきまして、ありがとうございます。第四次新宿区子ども読書活動推進計画、これは平成28年から31年度を期間とする、子どもの読書計画なんですけど、ここに数値目標を五つ定めました。それが、下落合図書館ができて、こちらの予測以上に下落合図書館で貸し出しが伸びた、また、来館者数が多くなったということで、五つのうち、四つは既に達成したということとなりました。4年間のうち、2年目ということですが、来年度第5次の計画を策定していくんですが、このままですと基準値がずれてしまうので、このたび、上方修正をさせていただきたいと、そういうことでございます。項目ですが、1、第四次計画の数値目標の数値についてというところで、表が表に三つ、裏に返していただいて、二つございます。これが数値目標でございます。まず、1番目の数値目標ですが、これは区立図書館の子どもの、延べ利用人数の増加ということで、区内在住の貸し出し登録者の延べ数を挙げたものです。見方としましては、どの表も一番右の表に平成31年度の目標値がございまして、そこに当事者の目標値と、更新後という米印のものがありません。(1)の指標については平成28年度の合計実績が、128,775人ということで、最初の年からして、平成31年度の目標の124,100人を既に上回ったというようなことがございました。これは、伸び率を勘案してこのたび、15万5000人という数に上げさせていただきたいと思っております。

2番目については、子どもの年間貸出数の増加。これを区内在住者による個人貸出数の延べ数なんですけども、これは平成29年度の実績が前年度に比べて上がったということです。これは、下落合図書館ができたことで急激に上がりはしたんですが、その上がりの

まま行くわけではなくて、その先は緩やかに伸び率になるということを予測しまして、当初の目標が43万9600冊だったところを51万冊ということで、修正をさせていただきたいと思います。続いて3番目です。区立図書館における団体貸出者数の増加です。団体貸し出しにはこども図書館独自の配本車で行うものと、各館に保育園の方とかもいらして、直接借りるものとあるんですが、それがかなり伸びまして、やはり、平成28年の初年度が5万7609と当初目標値が5万7000冊ですから、ここからして、既に達成をしていたということでございます。伸び率を勘案しまして、平成31年度の目標値を6万1000冊に直させていただければと思います。また、ちょっとここに米印で補記させていただきましたが、第1次実計の目標値は測定時に目標値を達成しており、6万1000冊を採用ということを補記しましたが、新宿区には第一次実行計画というものがあまして、これは事業と事業の実績と勘案して、予算の計画に基づいて中長期計画を定めるものなんですが、これ、定めた時点で既に超過していましたので、そちらのほうは既に最初の時点から直した数字を用いさせていただいたので、それをそのままということでございます。

裏をおめぐりいただいて、続いて、4番目、区立図書館における、団体貸し出しの利用率の増加。これは区内に何施設、何学校、何学級があって、その中で団体貸し出しを利用しているのはどのぐらいあるのかという率なんですけど、これは順調に推移をしておりますので、平成31年度目標値が75パーセントということですが、これはそのまま採用ということで更新はしないということとさせていただきたいと思います。5番目、区立小中学校の児童、生徒、不読者率の減少。これは、当初目標値が小学生以下は2パーセント、中学生以下が5パーセント以下という数とさせていただきました。というのは、これは国や東京都が定める不読者率の目標値がこのような数字でございまして、あと、これが平成28年度の実績からして、もう0.1パーセント、0.2パーセントという数字にはなってはいたんです。それ以前は学校図書館の整備がなかなかの状態でしたけども、この辺りから学校図書館のほうに支援が付き、蔵書数が標準数ですか、128パーセント前後まで来ているところです。急激に学校図書館が整備されたというようなこともあって、目標値は2パーセント、5パーセントと国や東京都に沿ってはしたんです。平成31年度の目標値は小学生以下0.1パーセント、中学生以下は0.2パーセントという数字を、維持を図りたいと思っている状況です。五つの数字については以上でございます。

**【会長】** では、これはうれしい数字という、そういうことですね。不読者率がそんなに新宿区は少ないんですよ。びっくりしますね、これは。驚きました。では、皆さまがたのご承認いただいたということでよろしく願いいたします。あと、きょうの最後ですけども、また、図書館の見学を去年も続いて、行いたいということで、先進図書館の見学ですけども、どこかこういう所に見学行きたいという、そういうご提案ありますか。

**【委員】** 荒川区の区立図書館。去年新設がオープンしていると思うんですけども、なか

なかの規模でございますし、やっていることが新しいので、ぜひ行って見てみたいというふうに思っています。できれば、ご検討ください。

【会長】 どうぞ。

【委員】 図書館名を忘れてしまったのですが、荒川区だと思うんです。吉村昭さんのある所ですよ。

【委員】 そうです。

【委員】 ぜひ行ってみたかったので、同じ意見です。

【会長】 荒川区が出ておりますけれども、あれは中央になるんですかね。

【委員】 中央です。

【会長】 他にありませんでしょうか。では、荒川区で検討していただいて、あと都合がなかなかつかないということであれば、また、どこか、ということでもよろしくお願いいたします。きょうは以上で議題は終わります。では、次回は来年の1月の10日です。木曜日のこの時間ということになりますけれども、皆さまがたの出席をよろしくお願いいたします。きょうはどうもお疲れさまでした。これで終わりにします。

(了)